

地域の身近な相談相手

民生委員・児童委員



【左】藤村秀也 民生児童委員 菟田野地域（担当：東郷、入谷）
【右】小松原悦子 民生児童委員 菟田野地域（担当：松井）

皆さんは「民生委員・児童委員」（以下、民生児童委員）をご存知ですか。

少子高齢化や核家族化が進み、人と人とのつながりが薄れてきている中で、地域住民の声に耳を傾け、地域福祉の担い手として活躍する民生児童委員の活動を紹介します。

問 厚生保護課
 ☎ 82・2221 / IP ☎ 88・9079) 大宇陀地域事務所
 ☎ 83・2251 / IP ☎ 88・9195) 菟田野地域事務所
 ☎ 84・2521 / IP ☎ 88・9188) 室生地域事務所
 ☎ 92・2001 / IP ☎ 88・9182)

支え合える地域社会の実現を目指して



市民生児童委員連合会 西岡博文会長

私たちが民生児童委員は、地区からの推薦を受け、厚生労働大臣の委嘱を受けて、日々活動しています。任期は3年で、使命感と情熱、そして民生児童委員の信条を胸に地域での見守りや訪問活動をしています。この活動を通して地域の皆さんに寄り添い、身近な相談相手として行政や専門機関とのパイプ役となり、支援を必要とする人たちをつなげていきます。普段私たちは、相談された方から「ありがとう」と言われることに、人と人への感謝の気持ちでつながる素晴らしい活動であると喜びに感じ、さらなる活動に向けた活力と力になっていきます。最近では地域社会や家庭の有り様が変化してきており、社会的孤立や生活困窮、育児、介護、障がいなどで地域住民の抱える課題が複雑多様化しています。今後自治会や地域の各種団体との関係を強化しながら、誰もが安心して住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、支え合える地域社会の実現を目指して、取り組む必要があると思っています。これからは様々な方への見守り活動等を通じて力ながら地域社会との絆をつなぐ役割に全力で取り組んでまいりたいと思っています。そのためには地域の皆さんの多くのご理解とご協力が必要となりますので、少しでも私たち民生児童委員の活動に関心を持っていただければありがたいと思っております。

「地域のパイプ役」 民生児童委員の活動

民生児童委員は、住民の中でその地域の実情をよく知り、福祉やボランティア活動などに理解と熱意のある人から選ばれます。地域のつながりが薄くなっている今、子育てや介護の悩みを抱える方や、障がいのある方、孤立した高齢者が必要な支援を受けられるように、身近な相談相手となり、情報提供などをして「地域のパイプ役」を務めます。

民生児童委員とは

「民生委員」は、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員です。地域住民の立場から生活や福祉全般の相談・援助活動を行っており、100年以上の歴史を持つ制度です。また、全ての民生委員は「児童委員」も兼ねており、子育ての不安等に関する相談や、支援も行っています。その中で、一部の児童委員は児童に関することを専門に担当する「主任児童委員」の指名を受けています。

福祉サービスの情報を提供し、関係機関につなぎます

子育て、介護、生活など様々な相談を受けます。福祉サービスの情報提供や要望を関係機関につないだりします。



「アクティブセンターうだ」でのクリスマスツリー飾り付け【榛原】



「大宇陀ラガール」訪問（餅つき）【大宇陀】



薬物乱用防止街頭啓発【菟田野】

各地域で様々な活動を行っています

各地域での日常的な活動のほか、各地区民生児童委員協議会の定例会などへの出席、福祉制度を学ぶための研修会への参加。また福祉施設の訪問、街頭啓発や様々な地域行事へも参加しています。



「室生園」訪問（葉ボタン植え）【室生】

「宇陀市地域福祉計画および地域福祉活動計画」を策定

全国的に進む少子高齢化に伴う人口減少社会のなか、子どもから高齢者までを取り巻く環境は大きく変化し、貧困問題をはじめ、いじめやストレスの増大による虐待、ひきこもりなど深刻な問題が増加しています。

地域住民が、住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう、地域社会の中で、地域のつながりと支え合いのもと、「地域共生社会」の実現に向けて、取り組みを進めていく必要があります。

この計画は、市が策定する「地域福祉計画」と市社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」を一体的に策定するもので、地域ニーズの変化を踏まえながら、自助、共助、公助が連携し、地域で様々な課題の解決を図り、今後5年間の取り組みによる地域福祉の推進を目指す基本計画です。

この計画を進めるうえで、地域福祉の担い手である民生児童委員の活動と協力は欠くことのできないものです。



介護福祉課 主幹 中野

特集

市政トピックス

うだだから

まちのわだい

みんなで子育て

病院・ウェルネス

お知らせ

掲示板

うだちゃん

これからも地域のために

市では、各地域ごとの実情に合わせた活動ができるよう、旧町村ごとに地区民生児童委員協議会を設けて活動しています。ここでは各地区民生児童委員協議会会長に日々の活動状況や課題などについてお聞きしました。

大変なお仕事ですが、なぜ引き受けられたのですか？

【菅間（室生地区）】民生児童委員は各地域から自治会の推薦により推薦委員会等を経て選ばれます。私も、まず自治会長から推薦の話がありました。最初は大変というイメージがあったので断るつもりでした。しかし、過去に自分の身内が介護の問題で地域の民生児童委員の方にお世話になったことを思い出して、自分がお返しするときにと思い、引き受けることにしました。

【小笹（菟田野地区）】私は専業主婦で、行政とのつながりがほとんどなかったため、推薦があったときはびっくりしました。しかし、ボランティアなど様々な活動に参加して



菟田野地区 小笹富土子 会長 (担当: 佐倉)
大宇陀地区 菅田美佐子 会長 (担当: 本郷, 中庄)
榛原地区 西岡博文 会長 (担当: 池上, 福西, 高塚, 栗谷)
室生地区 菅間正則 会長 (担当: 室生)

最近では新型コロナウイルスの影響で訪問できなくなった方から、「民生委員辞めたの？」と寂しがられることもあります。

新型コロナウイルスの流行で活動への影響はありますか？

【西岡】影響はかなり大きいです。毎年、各地区や市全体の活動の計画を立てますが、ほとんど実行できませんでした。毎月の定例会議も中止になることが多く、委員同士の横のつながりで、直接話し合う機会が減ってしまいました。

【菅間】地域での活動にも影響があります。以前から気になる方は接触の機会をなるべく減らしながらも様子を伺うようにしています。しかし、普段の訪問活動は今までのようにかず、電話でのお話という形をとっていますし、訪問



できても短時間で切り上げています。こんな時ですので、近所の方も見守っていたら、何かあれば連絡していただければ助かります。

今後の活動について

【菅間】先程、自立の手伝いと云いましたが、最近ではデジタル化が進み、手続きが複雑化しています。高齢者には理解するのが難しく、手助けしようにも我々自身も高齢者なので大変です。活動は辛いことでもあります。人に喜んでもらえるやりがいのある仕事であるという意識をもって次にバトンタッチできるようにがんばりたいです。

【小笹】活動していくためには委員同士のつながりも大事だと思っています。他にも役職をお持ちの委員もおられ、忙しいとは思いますが。今はコロナ



ナで活動ができませんが今後地域で委員同士が足並みをそろえて活動していきたいですね。

【西岡】相談が複雑化し、活動内容も広がっています。問題が表面化した時には手遅れのケースもあります。我々も絶えずアンテナは張っていますが、できるだけ早く発見するには地域の方の協力が不可欠です。ぜひ関心を持って協力をお願いしたいです。

【菅田】今は高齢の方の相談が中心ですが、児童や障がい者の見守りにも力を入れていきたいです。民生児童委員にもいろいろな方がいます。協力して活動するなかで自分の視野も広がります。なり手が少なくなっていますが、本当にやりがいのある仕事ですので関心を持ってほしいですね。

いたので、地域内での他の方とのつながりはありました。実際にやってみて、最初は何も分かりませんでした。今はいろいろな方とのつながりができて良かったと思います。

仕事で心がけていることはありますか？

【西岡（榛原地区）】担当する地域が広いと、自分の住んでいる地域以外のことが多くあります。その地域の自治会長や老人会の役員の方などから情報を得て活動していきます。地域の方からの情報がないと、活動するのは難しいです。

また、思い込みで活動をしていないことも大事だと思っています。若年性の認知症のケースではじっくり話を聞いて、様々な関係機関にも紹介してもらい解決したこともあります。

【菅田（大宇陀地区）】相談があっても、最初から何でも言ってくれる方は少ないですね。最初は警戒されますし、公の助けを受けることに抵抗のある方もおられます。何度も何度も訪問して、時

間をかけて相手の方との距離を縮めていく必要があります。

【菅間】自立に向けて支援していくことが大事だと思います。民生児童委員は日常の買い物などもやってくれると思っています。自分でも生活できるための援助、ヘルパーさんを紹介するとか、相談窓口を紹介して自立への手助けをする必要があります。

【小笹】人と人とのつながりが大事です。悩み事を抱え込んでしまう人、誰かに聞いてもらいたい人、いろんなタイプの人があります。同じ地域に住んでいても、これらの人との信頼関係がないと話が進みません。

やっていたよかったと思うことはありますか？

【菅間】やはり、相談を受けるなかで、信頼関係が築け、「ありがとう」と言ってもらえた時ですね。最初は相談する方も、受ける我々もお互いに辛いです。最初は相手も戸惑っているため、大きな声で明るく接するようにしています。話を聞くうちに相手が心を開いてくれて解決につながったときは本当にうれしいです。

医療介護 あんしんセンター

高齢者調査を通じて

宇陀市では、一人暮らし高齢者世帯は、この20年で、3倍となり、平成27年には1,785世帯となりました。(国勢調査)

医療介護あんしんセンターでは、一人暮らし高齢者の健康状態や緊急連絡先等を把握することを目的に、民生児童委員の協力のもと、「高齢者調査」を実施しています。この調査は、民生児童委員が、一人暮らし高齢者の自宅を訪問し調査しますが、活動を通じて様々な相談が寄せられ、顔の見える関係づくりに役立てられています。民生児童委員は、介護保険サービスや専門的な支援などが必要な場合、市役所、警察、当センター等につなげ、連携して市民の暮らしを支えています。「民生児童委員に相談したことで、振込詐欺の被害を未然に防ぐことができました。」などの成果もあります。

一人で悩むのではなく、身近な相談役として地域の民生児童委員に相談してはいかがでしょうか。



医療介護あんしんセンター 所長補佐 上高垣内

